

神話伝説の山里

たかちほごう

「高千穂郷」通信

251

令和6年8月号



発行 宮崎県西臼杵支庁



「高千穂郷日本一の道づくり活動」推進中！

西臼杵支庁では、地域住民と協働した道路環境の美化の取組を進めるため、西臼杵管内の国道・県道で道路美化や沿道植栽といった「アダプト活動」を行う企業や団体に「高千穂郷日本一の道づくり活動」の認定証を交付し、プランターや花の苗を支給しています。

現在、3団体（岩戸地区公民館連絡協議会、五ヶ瀬町第八区公民館、木田建設株式会社）に認定証を交付していますが、このうち、岩戸地区公民館連絡協議会が活動する区間では、西臼杵地区で初めてとなる「アダプト看板」を高千穂町岩戸地区の天岩戸橋付近に設置し、9月4日（水）、同協議会員など約25人が集まって看板の除幕式が行われました。

「アダプト」とは、英語で「養子にする」という意味で、「アダプト活動」には、「地域にある道路を地域の皆さまに愛情を持って育てていただきたい」という意味が込められています。西臼杵支庁では、今後も地域の皆さまと協力して、豊かな自然と調和した美しい道路景観をつくっていきます。

米づくりの負担軽減 につながる技術

西臼杵^{すい とう じか まき}水稻直播研修会

が開催されま



実証ほ場の視察

8月23日（金）、県、町、JA、NOSAIで構成する高千穂地区営農振興協議会の主催により、水稻の管理負担の軽減を目的とする西臼杵地区水稻直播研修会が、西臼杵農業改良普及センターで行われました。

「水稻直播」は、水田に直接種子をまく農法で、手間のかかる育苗や田植え作業が不要というメリットがあるものの、発芽率の低さや除草対策が必要といった技術的な課題があり、西臼杵地域では、これまで普及が進んでいませんでしたが、現在、普及センターでは、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の元職員で、

直播技術の開発者でもある山内 稔さんの協力を得て実証を進めています。

今回の研修は、新技術である「新鉄コーティング技術」の導入や「水管理技術」の改善によって、従来の苗箱での育苗（田植え）と遜色ない生育結果が得られたことから、改めて水稻直播技術を普及させるために開催したものです。

当日は、管内の生産者、関係機関の職員など65名が参加し、普及センターや山内さん、実証農家などから技術ポイントや有用性の説明があったあと、実証ほ場を視察しました。

普及センターの高嶋 和彦主幹は、「直播技術は以前からあるものの、ちょっとしたノウハウが足りなかったことが原因で普及しなかった。今回、山内さんの協力も得たことで、技術員も自信を持って生産者に勧めることができる。特に飼料稲（ミナミユタカ）の直播は、実用レベルに達している」と話していました。



注意点等を説明する 普及センター 尾西 優 技師

すい とう じか まき

水稻直播とは？

従来の、別の場所で育てた苗を水田に植える方法（移植栽培）に対し、水田に直接種子を播く方法を「水稻直播」といいます。

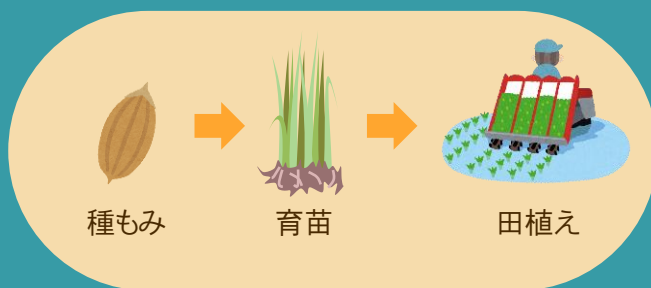
苗を育てる育苗と田植作業を省略できるため、大幅に負担が減ることに加え、低コスト化にもつながるというメリットがあります。

？ 鉄コーティング種子

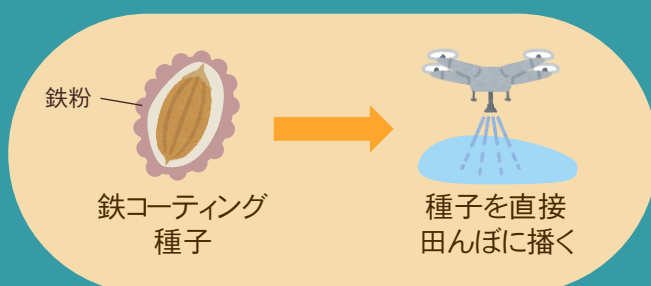
直販栽培に使用する、鉄粉をコーティングした種もみのことです。

これにより、種子が重くなり、水を張った田んぼに播いても浮かず、スズメ等からの食害も軽減されるというメリットがあります。

移植栽培（従来の方法）



水稻直播



※コーティングには鉄以外が使われることもあります

した！



関係者の
声

研修に参加して
いただいた

富高 康雄さん
高千穂町・水稻生産者

これまで実施したことがない作業ということもあり不安はありますが、育苗して田植えする方法では負担が大きいのので、省力化という面で関心を持っています。

実証に御協力
いただいた

江藤 真弥さん
高千穂町・水稻生産者

播種する前の作業や水管理は難しい部分もありますが、育苗・田植えという労力のかかる部分を省くことで負担軽減に繋げることができ、取り組んで良かったと思っています。



西臼杵農業改良普及センター
高橋 七海 主事

取材を終えて・・・

今回の取材を通して、担い手不足によって放棄された水田も少なくない状況の中、少しでも手間を省くことができる「水稻直播」はとても画期的な技術だと感じました。

一方で、従来の栽培方法との違いに不安を感じる農家の方もおられ、そのような方に対する支援体制を築いていくことが重要だと感じました。

宮崎県議会 防災減災・県土強靱化対策特別委員会

の現地調査が行われました

8月6日（火）から7日（水）にかけて、防災減災・県土強靱化対策特別委員会（佐藤 雅洋 委員長）による県北調査が行われました。

今回の調査では、県北地域で計5か所の施設で視察が行われ、西臼杵管内では、五ヶ瀬ハイランドスキー場（向坂山森林公園）と高千穂峡遊歩道で視察が行われました。

このうち、五ヶ瀬ハイランドスキー場の視察では、五ヶ瀬町役場の担当者から、令和4年9月の台風14号による町道本屋敷波帰線の被災により2シーズン連続で休業となったスキー場の営業再開に向け、大規模地滑り箇所の仮復旧を令和6年10月末までに行うとの説明がありました。

また、同じく令和4年9月の台風14号で被災した高千穂峡遊歩道の視察では、西臼杵支庁担当者から、五ヶ瀬川の増水によって土台ごと流された区間を、現地の自然石を活用してかさ上げし、災害に強い構造で復旧したとの説明がありました。



高千穂峡遊歩道を視察する様子

本会議

議会運営委員会

常任委員会

特別委員会

宮崎県議会の
仕組み

※令和6年度の構成



- 地域活性化対策特別委員会
- 防災減災・県土強靱化対策特別委員会
- カーボンニュートラル推進対策特別委員会

特別委員会では、県政の重要課題のうち特定の事項について、その解決に向けた提言を行うため、決定された調査事項や活動計画などに基づき、県の関係部局及び関係団体等からの説明の聴取や現地調査等を行っています。



日之影町で

知事との本音トーク
～しゅんじと旬な時間～

が開催されました！



9月9日（月）、日之影町役場の町民ホールで、河野知事が地域住民の方々とざっくばらんに意見交換をする「知事との本音トーク～しゅんじと旬な時間～」が開催されました。

これは、知事が県民の皆さまと対話を重ねることにより、「対話と協働」による県政運営に取り組むことを目的として開催されているもので、日之影町では、前身である「知事とのふれあいフォーラム」以来、5年ぶりの実施となりました。

当日は、地元の方々10名が参加し、河野知事が本県の課題や強みなどを説明したあと、「日之影町の将来像と直面する課題」をテーマに意見交換が行われました。



放牧に取り組む岩田さんの農場で
行われた現地視察と意見交換

参加者からは、同町の強みである手厚い子育て支援についてもっと発信していく必要があることや、農林業で人手が不足していることなどの意見が挙がり、知事は「御意見を伺う中で、日之影町の魅力や課題を深く理解するとともに、いろいろな気づきを得ることができた。これからも皆さまの思いを受け止めながら、宮崎県の元気につながるような取組を進めていく」と話していました。

また、知事との本音トーク終了後には、同町岩井川で繁殖牛の山岳放牧に取り組む岩田 篤徳さんの牧場を視察しました。

牧場では、放棄された山林等を16年をかけて約10haの放牧地に転換し、省力・低コストの放牧技術を確立したことなどについて、岩田さんから説明があった後、日之影町の佐藤 貢 町長や佐藤 雅洋 県議会議員も交えて意見交換が行われました。

日本ワインコンクール2024で



五ヶ瀬ワイナリー 緑 & 月華



が入賞！

国内最大規模のワインの審査会である「日本ワインコンクール2024」で五ヶ瀬ワイナリーの2銘柄が入賞し、8月30日（金）に表彰式が山梨県庁で行われました。

これは、山梨県や関係団体でつくる実行委員会が開催しているもので、今回のコンクールでは、五ヶ瀬ワイナリーから出品した「緑」（北米等品種・白部門）が銀賞、「月華」（スパークリングワイン部門）が銅賞を受賞しました。

五ヶ瀬ワイナリーで使用されるぶどうは全て五ヶ瀬町産です。標高600mに位置する五ヶ瀬町で生産されるぶどうは、激しい寒暖の差と美しい水によって、糖度と酸味のバランスが絶妙です。

今回の入賞は、地元五ヶ瀬町の関係者のみなさんはもちろんのこと、日頃からぶどうの生産農家さんを訪ね、育成状況の確認や指導などをさせていただいている西臼杵農業改良普及センターにとっても、大変喜ばしい吉報となりました。

五ヶ瀬ワイナリーのみなさま、入賞おめでとうございます！



銀

緑



銅

月華



ぶどうの育成状況を確認する
西臼杵農業改良普及センター
富樫 瑞穂 技師



Facebook

Instagram



西臼杵支庁 SNS

更新中！

発行／宮崎県西臼杵支庁 編集／総務課
〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井22
TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760



神話伝説の山里
「高千穂郷」通信

